

健保オプションA

名称	健診項目説明 『注意：一般的な説明であり、健診機関によっては一部異なる場合があります。詳細は受診する健診機関へ確認してください。』
1 食道・胃・十二指腸X線（バリウム）	胃バリウム検査とは、発泡剤（炭酸）で胃を膨らませ、バリウム（造影剤）を飲んでX線（レントゲン）を連続的に照射しながら撮影する検査です。正式には「上部消化管X線検査」と言います。胃バリウム検査は、胃・食道・十二指腸のがん疾患のほか、胃潰瘍や胃炎、ポリープなどを早期発見することが目的です。
2 胃内視鏡検査	上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）とは、口から内視鏡を挿入し、上部消化管（食道、胃、十二指腸）の観察を行う検査を指します。消化管内部を詳細に観察して診断を行うほか、鉗子口より様々な医療器具を挿入し、病変部を採取・切除するなど、処置や治療も行う場合があります。
3 胃内視鏡検査（バリウムからの変更）	壮年健診の胃バリウム検査を胃内視鏡検査へ変更する場合の費用に対するオプション補助です。
4 胃内視鏡時の鎮静剤	胃内視鏡検査（胃カメラ）に伴う苦痛や不安を減らすために、鎮静剤の使用を選択できる医療機関が増えています。鎮静剤とは、興奮を鎮めたり、眠気をもよおしたりする効果のある薬で、麻酔薬ではありません。胃内視鏡検査では、ミダゾラムやプロポフォールなどの鎮静剤を使用することが一般的です。鎮静剤の使用により血圧が下がったり、呼吸が弱くなることがありますので、検査中と検査後も意識がはっきりするまではモニターをつけて監視する事が多いです。検査が終了しても薬が効いているためしばらく休む必要があり、これらの薬を使用する場合には検査後その日1日は自動車やバイク、自転車の運転を控える必要があります。
5 ペプシノゲン	血液中のペプシノゲンの産出量を測定することによって、高い確率で萎縮性胃炎を発見することができます。胃がんは萎縮性胃炎を経て発生する可能性が高いので、胃がんの早期発見に有効な検査方法と言えます。
6 ピロリ菌抗体検査	ピロリ菌の抗体をもっているか血液検査で調べます。ピロリ菌は人の胃に持続感染する事により萎縮性胃炎を進行させ、胃がんの危険因子の一つと言われています。過去にピロリ菌に感染し除菌した方でも抗体陽性(+)となることがあります。
7 ABC検査	胃がんリスク層別化検査（ABC検査）とは胃の粘膜に生息するピロリ菌の感染の有無と、胃粘膜の萎縮度（ペプシノーゲン判定）を血液検査で調べ、一生の間に胃がんなどの胃疾患に罹るリスクを判定する検査です。
8 眼圧検査	房水という液体によって保たれている眼球内圧(眼圧)を測定する検査です。眼圧の変動は目の異常を知る重要な手がかりです。高眼圧症や緑内障などの有無を調べることができます。高眼圧が継続しているときは、高眼圧症か緑内障を発症している可能性があります。
9 眼底検査	眼底検査とは、瞳孔の奥にある眼底を眼底カメラで撮影し、眼底の血管、網膜、視神経等を調べる検査です。眼底とは眼球の後内壁面を覆う網膜のことで、瞳孔を通して観察し写真撮影することができます。私たちは網膜の働きで物を見ますので、その出血や変性などは重大な所見です。また、糖尿病性網膜症や緑内障などの失明に至る恐れのある病気を早期に発見できます。さらに、眼底にある動脈を観察して、高血圧性変化や動脈硬化の程度を調べます。
10 頸動脈超音波	脳に血液を送る首の動脈を超音波で簡単に視覚化できる検査、頸動脈エコー検査とも言う。動脈硬化の早期発見や進行具合を確認する。頸動脈とは、脳に血液を送る首の血管です。頸動脈エコー検査とは、首の血管の様子を超音波を使って簡単に画像で見ることができる検査です。
11 血圧脈波検査（ABI）	正常では足首の血圧の方が上腕の血圧より高いのですが、動脈の内腔が非常に狭くなると足首の血圧が腕の血圧より低くなります。ABIとは、ankle brachial index（足関節上腕血圧比）の略で、ABI検査とは、両側の上腕と足首の血圧を測定してその比（ABI）を計算することにより、比較的太い動脈の内腔が狭くなっていないかどうかを調べる検査です。ABIは『比較的太い血管のつまり具合』の目安です。
12 血圧脈波検査（CAVI）	CAVIとは、心臓（Cardio）から足首（Ankle）までの動脈（Vascular）の硬さの指標（Index）の略で、動脈の硬さの指標です。CAVIは、普段の血圧に関係なく、心臓から足首までの動脈の硬さなどを数値で評価することができます。
13 血圧脈波検査（PWV）	PWVとは、Pulse Wave Velocity（脈波伝達速度）の略です。心臓から押し出された血液の拍動は、血管の壁や血液を伝わって末梢まで届きますが、血管の壁が硬いほど拍動は早く伝わるという性格があります。PWV検査とは拍動の伝わり方の速さを調べる検査で、PWVは『比較的太い血管の硬さ』の指標のひとつです。
14 喀痰細胞診	喀痰細胞診は、3日分の痰を1つの容器にまとめて（蓄痰法）、もしくは3つの容器に1日ずつ別々に入れた（連痰法）検体を提出してもらい、顕微鏡で調べる検査です。これは気管支などの肺門部にできたがん細胞の一部が、痰にまぎれて出てくるものを調べるための検査です。
15 運動負荷心電図検査	運動することによって心臓に負担をかけ、安静時では分からない異常を見つけることを目的とした心電図検査のことです。
16 心臓超音波検査	心臓超音波検査は、人体に無害の超音波を用いて、心臓の形態や状態・機能、血液の流れなどを調べる検査です。心房や心室の縮小・肥大はないか、心筋は一定のリズムを保って動いているか、弁の逆流がないかなどを調べます。レントゲン・CT検査と違い、放射線の被ばくの心配がなく、繰り返し行うことができ、苦痛もありません。
17 脳性ナトリウム利尿ペプチド（NT-ProBNP検査）	NT-proBNP検査（慢性心不全リスク検査）とは心臓から分泌されるホルモンの一種であるNT-proBNPの値を採血によって調べる検査です。NT-proBNPは心臓機能が低下して心臓の負担が大きくなるほど血液中に多く分泌され、数値が高くなります。そのため、NT-proBNP検査は心不全の早期発見に役立つと考えられています。
18 Lox-index	Lox-index検査は、動脈硬化が原因の疾患（脳梗塞・心筋梗塞）の発症リスクを測定する血液検査です。この検査では血液中の「LOX-1」と「変性LDL」（さびついた悪玉コレステロール）の量を調べています。Lox-index値が高い方は脳梗塞、心筋梗塞の発症率が高くなることがわかっています。
19 腹部超音波検査	腹部の臓器（胆嚢、肝臓、膵臓、脾臓、腎臓）の異常や疾患を早期にみつかることができ、受診者の身体的負担の少ない検査です。
20 内臓脂肪測定	腹腔内に脂肪が蓄積する内臓脂肪蓄積型の肥満は、体脂肪の蓄積と比べて、より心筋梗塞や脳梗塞などの動脈硬化性疾患関連していることが報告されています。測定はCTを利用するケースが多いですが、MRIを利用する方法や、インピーダンス法（体内に微弱な電流を流して電気抵抗を測定し、脂肪の割合を算定する方法。）など複数の方法があり健診機関により異なります。
21 大腸がん検査（便潜血）	便潜血検査は便に血液が混じっていないかを2日分の便で調べる検査です。がんやポリープなどの病気があると、便の移動にともなって組織が擦れて大腸内に出血を起こすことがあるため、便内の出血量を調べることで大腸がんの発症リスクを判定することができます。精度をより高くするために、2日分の便を採取する方法（2日法）が一般的です。
22 子宮頸部細胞診	子宮頸部細胞診は、子宮頸部の細胞を採取し、顕微鏡で調べる検査です。ブラシやヘラなどで子宮頸部を優しくこすり、細胞を採取します。
23 経膈超音波	経膈超音波検査とは、婦人科で行う超音波検査の一つで、子宮や卵巣などを観察するための検査です。「子宮頸部細胞診」では、子宮頸がんについては調べることができますが、その他の女性に多い子宮筋腫や子宮内膜症、卵巣のう腫などの、子宮・卵巣の疾患は調べることはできません。経膈超音波検査は子宮や卵巣の中の状態まで詳しく観察することができるため、これらの疾患を発見することができます。
24 子宮体部細胞診	子宮内膜の細胞を採取して、病変があるかどうかを調べる検査です。病変の有無によって、子宮体がんの可能性を調べます。

名称	健診項目説明 『注意：一般的な説明であり、健診機関によっては一部異なる場合があります。詳細は受診する健診機関へ確認してください。』
25 HPV検査	子宮頸部から細胞を採取し、子宮頸がんの原因ウイルスに感染しているかどうかを調べる検査です。
26 乳房超音波	乳房超音波検査は、臓器や組織の境目で反射する超音波の性質を利用した検査です。乳房に超音波をあて、返ってくる反射波（エコー）をコンピュータによって画像化して異常の有無を調べます。この検査により、触診では発見できないような小さなしこりが発見できるほか、しこりが良性か悪性かがある程度わかります。
27 マンモグラフィ	マンモグラフィとは 乳房専用の撮影装置を使って行うX線検査です。画像に写ったしこりや石灰化の特徴から、良性・悪性を診断します。
28 骨密度検査・骨塩定量検査	骨密度検査とは骨の量を調べるための方法のひとつで、骨に含まれるカルシウムなどの量を測定します。骨密度検査には、DXA法、MD法、超音波法などがあります。骨塩定量検査とは骨中のカルシウムなどのミネラル成分の量を測定するものです。骨粗しょう症の診断や治療の経過観察、または、ホルモンのバランス異常による、あるいは先天性の代謝性骨疾患の診断や治療、病態の解明などに用いられる検査です。
29 甲状腺機能検査（TSH）	TSHは脳から分泌される甲状腺刺激ホルモンのことで、甲状腺ホルモンT3・T4の調節機能をもちます。これらを調べてホルモンの分泌異常がないかを調べます。
30 甲状腺機能検査（FT3）	甲状腺ホルモンにはT3とT4の2種類があり、甲状腺から分泌されるホルモンのほとんどはT4です。T3も一部は甲状腺から分泌されますが、多くは肝臓などの臓器でT4を材料に作られます。最終的にホルモンとして働いているのはT3です。したがって、甲状腺のホルモン合成能力を調べるにはT4、甲状腺ホルモンの全身への作用の程度を調べるにはT3を測定します。
31 甲状腺機能検査（FT4）	通常、タンパク質に結合していない、フリーのT3であるFT3とフリーのT4であるFT4を測定します。
32 甲状腺超音波検査	甲状腺超音波検査では人体に無害な超音波を用い、甲状腺の大きさや腫瘍（腫れ物やこぶ）の有無・周辺のリンパ節の腫れを調べます。苦痛や障害を伴わず、何度でも繰り返し検査することができます。
33 HBS抗原	HBs抗原はB型肝炎ウイルスの表面に存在する抗原です。したがってHBs抗原が高値（陽性）の場合は「現時点でB型肝炎ウイルスが体内に存在している」ということとなります。結果が「陰性」あることが正常です。B型肝炎ウイルスは急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がんを引き起こします。
34 HCV抗体	「HCV抗体」は、体内に侵入してきたC型肝炎ウイルスに対して作られた抗体の一種です。「HCV抗体」が陽性であればC型肝炎ウイルスに感染している可能性が高いと考えられます。
35 腫瘍マーカー-PSA	前立腺特異抗原（PSA）は前立腺がんの腫瘍マーカーです。
36 腫瘍マーカー-CEA	CEA (Carcinoembryonic Antigen) は大腸がんに応答しやすい腫瘍マーカーです。他に胃癌、肺癌、乳癌などでも数値が増加することがわかっています。
37 腫瘍マーカー-AFP	AFP（アルファ・フェトプロテイン）は肝臓の疾患を見つける腫瘍マーカーのひとつで、血液検査によって調べることができます。
38 腫瘍マーカー-CA19-9	CA19-9は膵臓の疾患などを調べる腫瘍マーカーのひとつで、血液検査によって調べます。
39 腫瘍マーカー-SCC	腫瘍マーカー-SCCの血液検査で調べるSCC抗原は、扁平上皮がんの発生によって産生されるタンパク質です。扁平上皮は、魚のウロコのような形をしており、皮膚、口腔内、食道、肺、子宮頸部などにみられる組織です。血液検査でSCC抗原の量を調べることで、扁平上皮がんの有無の可能性を知ることができます。
40 腫瘍マーカー-CA125	CA125は卵巣がん、子宮体がんの特異性がでる腫瘍マーカーです。そのほか子宮内膜症、子宮筋腫、良性卵巣嚢腫にも反応します。そのため、CA125は女性特有の疾患リスクに幅広く対応する腫瘍マーカーといわれています。
41 腫瘍マーカー-CA15-3	乳がんが高値を示します。他には、卵巣、子宮、肺、膵臓、胃、大腸などのがんで高値を示すことがあります。
42 腫瘍マーカー-シフラ	CYFRA（サイトケラチン19フラグメント）は、肺がんのうち、扁平上皮がんで陽性率が高い腫瘍マーカーです。扁平上皮がんで大量かつ高率に検出されます。
43 腫瘍マーカー-ProGRP	ProGRP(ガストリン放出ペプチド前駆体)は、肺がんのうち、小細胞がんで陽性率が高い腫瘍マーカーです。（小細胞がんは肺の肺門部という部分にできやすいがんで、他の肺がんより進行が早いです。）
44 腫瘍マーカー-抗p53抗体	腫瘍マーカー-p53の血液検査は、血液に含まれる「抗p53抗体」という物質の量を調べる検査です。抗p53抗体は、早い段階で食道がん、大腸がん、乳がんの数値が高くなることがわかっています。腫瘍マーカー-p53の血液検査は、診断が難しかったこれらの早期がんを診断するために行われます。
45 腫瘍マーカー-エラスターゼ	エラスターゼ1は、主に膵臓で作られるタンパク分解酵素の一つで、膵炎や膵がんなどの膵臓の病気を発症すると高値を示すようになります。
46 腫瘍マーカー-PIVKA II	PIVKA-IIは異常な血液凝固因子（凝固因子プロトロンビンの前駆体）です。健康な方の血液中には存在せず、ビタミンKの欠乏時や、肝障害、肝細胞がんのときに血液中出现します。PIVKA-IIは、肝細胞がんでは50%以上の陽性率を示しますが、肝硬変での陽性率は10%以下で、肝がんと肝硬変との鑑別にも有用です。
47 腫瘍マーカー-NSE	NSEは神経内分泌細胞に含有される解糖系の酵素であり、神経内分泌腫瘍や肺がん、特に肺小細胞がんの腫瘍マーカーとして広く用いられています。
48 腫瘍マーカー（健診実施機関が採用するその他のもの）	壮年健診実施機関が採用しているその他の腫瘍マーカー

名称	健診項目説明 『注意：一般的な説明であり、健診機関によっては一部異なる場合があります。詳細は受診する健診機関へ確認してください。』
49 尿中NMP22	尿中核マトリックスプロテイン22（NMP22）は、細胞の核内蛋白質の一種です。細胞分裂の制御に関与するとされ、各種癌細胞では正常細胞に比して発現量が増加することが知られています。尿中NMP22は健康人の尿中に微量検出されるが、膀胱癌、腎盂癌、尿管癌などの尿路上皮癌患者の尿中で増加することが報告されており、尿路上皮癌の診断補助に有用とされています。
50 尿中ミオインシトール検査	尿中ミオインシトール検査は糖尿病に関する検査です。糖アルコールの一種であるミオインシトールは、糖尿病患者の様に体内でのブドウ糖の処理能力が低下した人では、食後あるいはブドウ糖を飲んだ後の尿中に多量に排泄されることが報告されています。糖尿病では高リスクと見なされている食後高血糖を反映する指標と考えられています。
51 女性更年期チェック、（女性ホルモン検査）	女性更年期チェックは卵胞刺激ホルモン・エストラジオール・ソマトメジンCなどのホルモン量を血液検査により調べ、更年期状態を把握します。
52 睡眠時無呼吸症候群スクリーニングテスト	一晩の睡眠で呼吸停止が30回以上生じる場合に睡眠時無呼吸症候群と定義されています。近年、睡眠時無呼吸症候群と生活習慣病との関連も指摘されています。「激しいイビキ」、「熟睡感が得られない」、「昼間の眠気」などが気になる方が受診する検査です。
53 風疹感染症抗体検査	風疹抗体検査とは、風疹ウイルスに対する免疫の有無を調べるといった内容で、採血による血液検査で判明します。
54 麻疹感染症抗体検査	麻疹抗体検査とは、体に麻疹に対する免疫（抵抗力）があるかを調べる検査です。抗体の量（抗体価）によって判定し、抗体陽性とは感染しにくいことを意味します。抗体価は、採血して調べます。
55 おたふくかぜ感染症抗体検査	おたふくかぜの原因である「ムンプスウイルス」の抗体価を血液検査で調べます。IgMとIgGという2種類のムンプスウイルスの抗体価を調べることで、以前「おたふくかぜ」にかかったことがあるか、現在かかっているかどうかを判断できます。
56 水痘感染症抗体検査	水痘とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスというウイルスによって引き起こされる発疹性の病気です。水痘感染症抗体検査とは、水痘帯状疱疹ウイルスに対する免疫の有無を調べるもので、血液検査で判明します。

健保オプションB

名称	健診項目説明 『注意：一般的な説明であり、健診機関によっては一部異なる場合があります。詳細は受診する健診機関へ確認してください。』
1 頭部MRI・MRA(含む脳ドック等の検査)	頭部MRI検査は、MRI装置を用いて頭部の断層写真を撮影する検査です。脳卒中（脳出血、脳梗塞、くも膜下出血など）の検出やリスク発見、特に虚血性の脳卒中である「脳梗塞」の検出力に優れています。MRA（磁気共鳴血管撮影法）検査も、電磁波を用いますが、血流の信号のみを処理することで、造影剤を用いることなく脳血管、特に脳動脈の形態を立体画像化します。
2 頭部CT	頭部CT検査とは、エックス線を使用して、頭部の断層撮影を行う検査です。5mmから1cm間隔で脳内を輪切りにした画像を撮影することで、脳出血や脳梗塞、腫瘍の有無を診断します。
3 胸部CT	胸部CT検査とは、X線を使って胸部の断層写真を撮影する検査方法で、人体を透過したX線をコンピューターで処理して体の輪切り像を作ります。この輪切り画像を積み重ねることで、肺の状態や働きを詳しく観察します。
4 腹部CT	腹部CT検査とは、X線を使って腹部の断層写真を撮影する検査方法で、人体を透過したX線をコンピューターで処理して体の輪切り像を作ります。この輪切り画像を積み重ねることで、腹部の臓器を詳しく観察します。
5 肺ドック等の肺がん検査	主に胸部CTとその他の肺に関する検査を含むもので、健診機関により内容は異なります。
6 心臓ドック等の循環器検査	心臓病（心疾患）リスクを調べる検査であり、心電図検査、心臓CT検査（冠動脈の動脈硬化の進行度などをチェック）、心臓超音波検査、血液検査等を調べることが多いが、健診機関により検査項目は異なります。
7 膵臓ドック等の検査	主として膵臓がんの早期発見を目的とする検査であり、画像診断や血液検査等を実施することが多い、健診機関により検査項目は異なります。
8 肝臓ドック等の検査	病気が進行しても自覚症状の出にくい臓器である肝臓を調べる検査。血液生化学検査、腹部超音波検査、肝硬度測定検査等やMRIを利用することもあり、健診機関によって検査項目は異なります。
9 その他MRI（手足を除く）を含む専門検査	手足を除く部位を対象にしたMRIを利用した検査。
10 その他CT（手足を除く）を含む専門検査	手足を除く部位を対象にしたCTを利用した検査。
11 大腸内視鏡検査	大腸カメラ（大腸内視鏡検査）は、下部消化管内視鏡検査と呼ばれており、直腸から盲腸までの大腸粘膜を直接観察できます。また、検査中に疑わしい粘膜病変を採取することで生検による確定診断が可能です。早期大腸がんや前がん病変の大腸ポリープを検査中に切除することで大腸がんの治療や予防にもつながります。
12 大腸内視鏡時の鎮静剤	大腸内視鏡検査では内視鏡を挿入する際に大腸を伸ばしたり、大腸の中を払って見ようと空気（または炭酸ガス）を入れすぎるとお腹がはったり、痛くなります。このような場合には鎮静剤などを注射することにより意識を低下させて緊張をやわらげ、苦痛を軽くします。鎮静剤の使用により血圧が下がったり、呼吸が弱くなることがありますので、検査中と検査後も意識がはっきりするまではモニターをつけて監視する事が多いです。検査が終了しても薬が効いているためしばらく休む必要があり、これらの薬を使用する場合には検査後その日1日は自動車やバイク、自転車の運転を控える必要があります。
13 大腸X線検査	大腸X線検査は、大腸の形状、がんやポリープなどの有無、隣接する臓器との位置などを確認することを目的としています。肛門に細いチューブを挿入して、そのチューブから造影剤や空気を注入し、X線画像を撮影します。
14 大腸CT	大腸CT検査は、内視鏡を使わないで大腸がんやポリープを見つける新しい大腸の検査法です。CTコロノグラフィー、大腸3DCT、バーチャル大腸内視鏡検査などともいわれています。便潜血検査が陰性でも、治療の必要な5mm以上のポリープが、この検査で見つかることがあります。炭酸ガスを注入して大腸を拡張させ、低線量CTを用いて撮影します。CT画像をもとに大腸の三次元画像を作成し、画像診断を行います。
15 アミノインデックス	アミノインデックスは、血液中のアミノ酸濃度を測定することで、健康状態や病気に罹患している可能性を調べる検査法です。アミノインデックスでは1度の採血で複数のがんを同時に検査することができますので、身体に負担の少ない検査法です。検査対象となるがんは、男性では胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん、女性では胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がん・卵巣がんが対象となります。

名称	健診項目説明『注意：一般的な説明であり、健診機関によっては一部異なる場合があります。詳細は受診する健診機関へ確認してください。』
16 MCIスクリーニングプラス	MCIスクリーニングプラスは、認知症の前段階である軽度認知障害（MCI）のリスクを判定するための血液検査です。この検査は、血液中の特定のタンパク質の量を調べることにより、アルツハイマー型認知症の前段階であるMCI（軽度認知障害）のリスクを統計学的に判定するものです。
17 眼科ドック	眼科ドックは、眼の健康を診断し、眼の病気を早期に発見・治療するために受ける検査です。一般的には視力検査、眼圧、眼底撮影、視野検査、屈折検査、三次元眼底解析検査、細隙灯顕微鏡による診察等の検査を行います。検査項目は健診機関により異なります。

専門ドック

名称	健診項目説明『注意：一般的な説明であり、健診機関によっては一部異なる場合があります。詳細は受診する健診機関へ確認してください。』
1 PET検査	PET検査とは、がん細胞の活性を診断する画像診断法で、微量の放射線でブドウ糖を体内に投与してから、専用のカメラで撮影することです。PET検査は、一度にほぼ全身の撮影ができるという特徴があります。PET検査は、FDG（放射性フッ素を付加したブドウ糖）を使って行いますので、糖尿病などで高血糖の状態では正確な結果が出ないことがあります。
2 DWIBS（全身MRI検査）	DWIBS（ドワイブス）法は「MRI」を用いた全身のがん検査法の一つです。DWIBSでは、人体の大半を占める「水分」の主要成分である水素原子核を磁気共鳴映像化することで、患部の正確な診断と転移の進行状態を調べることができます。そのため、体内で水分量が比較的多い、脳や血管などの検査にも向いているとされています。CT検査（コンピュータ断層撮影）やPET検査（陽電子放射断層撮影）と似ている部分がありますが、X線や放射線を全く使用せず、磁場を利用して高周波を人体に送ることで撮影をします。そのため、放射線による被ばくもなく、術後に放射性物質が残ることもありません。
3 脳ドック	脳ドックは、脳に関係する疾患の診断や早期発見を目的とした専門ドックです。脳ドックで実施される検査は、脳の断層と脳血管を撮影するMRI/MRA検査、頸動脈の狭窄を確認する頸動脈エコー検査、不整脈を調べる心電図、動脈硬化の程度を調べるABI（血圧脈波）検査と、血液検査などを組み合わせて行うことが一般的です。これらの検査では、現在の脳の健康状態を確認しながら、将来的な病気のリスクを診断します。健診機関により検査項目は異なります。
4 肺ドック	肺ドックとは、肺がんや慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの早期発見を目的とした検査です。肺ドックは、低線量マルチスライスCT、肺機能検査、痰の細胞診検査などから構成されることが一般的です。健診機関によって検査項目は異なります。
5 心臓ドック	心臓ドックとは、心臓病（心疾患）を早期発見して未然に予防するために効果的な検査コースです。心臓ドックでは、心臓に関する検査を行い、心臓病のリスクを評価します。心臓ドックで行われる検査には、運動負荷心電図検査、心臓超音波検査、心臓CT検査、心臓MRI検査、血圧脈波検査、血液検査、頸動脈超音波検査などがあります。健診機関により検査項目は異なります。
6 膵臓がんドック／膵・胆・肝ドック	膵臓がんドックは、膵臓がんの初期症状が無い場合、現時点で膵臓がんになっていないかを確認する検査であり、画像検査、血液検査等を組み合わせて肝胆膵領域のがんの早期発見を目的としています。膵臓肝ドックは、膵臓、胆嚢、肝臓の検査を行う人間ドックの一種です。膵臓ドックは、腹部超音波検査（飲水法）と非造影MR検査、造影CT検査を組み合わせて膵臓を重点的に観察するために行われます。膵臓がんの早期発見が目的であり、膵臓がんが発生しやすい「兆候」を拾い上げることが目的です。肝臓ドックは、肝臓の機能検査、肝臓の超音波検査、肝臓のMRI検査、肝臓のCT検査などを行います。胆嚢ドックは、胆嚢の超音波検査、胆嚢のMRI検査、胆嚢のCT検査などを行います。健診機関により検査項目は異なります。
7 肝臓ドック	肝臓ドックでは、慢性肝障害を早期に発見し、肝臓を悪くする原因や慢性肝障害の進行度（肝臓の線維化）を調べることができます。さらに、MRIと超音波検査を組み合わせることで、より精密に肝臓がんの検査を行います。健診機関により検査項目は異なります。
8 脂肪肝ドック	脂肪肝ドックは、脂肪肝の検査です。脂肪肝はアルコール性と非アルコール性に分類されますが、非アルコールの中にはNASH（非アルコール性脂肪肝炎）という油断できない疾患があります。検査としては特殊な超音波検査により、肝臓の硬さを調べます。またお腹のX線CT検査で、脂肪の量を測ります。健診機関により検査項目は異なります。
9 その他CT検査専門ドック	CTを利用したその他の専門検査（手足を対象としたものは除く）
10 その他MRI検査専門ドック	MRIを利用したその他の専門検査（手足を対象としたものは除く）
11 その他CT+MRI検査専門ドック	CTとMRIを利用したその他の専門検査（手足を対象としたものは除く）
12 レディースドック	「レディースドック」とは、女性特有の疾患を含めた総合的な身体の異常を一度で調べられる女性のためのドックです。通常の間ドックでわかるがんや生活習慣病などの疾患に加え、女性ならではの乳がんや子宮頸がんなどの早期発見を目指す目的があります。レディースドックは、乳がんや子宮頸がんなどのリスク発見に役立ちます。検査項目は健診機関によって大きく異なります。
13 眼科ドック	眼科ドックは、眼の健康を診断し、眼の病気を早期に発見・治療するために受ける検査です。一般的には視力検査、眼圧、眼底撮影、視野検査、屈折検査、三次元眼底解析検査、細隙灯顕微鏡による診察等の検査を行います。検査項目は健診機関により異なります。